

公民科（政治・経済） 学習指導案

指導日時 令和6年10月9日（水）5校時
 指導学級 国際流通科3年1組
 37名（男子9名、女子28名）
 使用教室 3階講義室Ⅱ
 授業者 教諭 小川 正明

1 単元目標等

教科名 公民	科目名 政治・経済	学年 3年	クラス 1・2組	単位数 2	担当教諭 小川 正明
単元(題材)名	福祉社会と日本経済の課題 (使用教科書：東京書籍『政治・経済』第4節)				
単元(題材)目標	○公害と環境保全，農業・食料問題，中小企業の現状と課題，情報化の進展と課題，消費者問題，雇用と労働問題，社会保障と福祉社会の実現について理解する。 ○日本の経済や社会が抱える諸課題の解決に向けて自分には何ができるか考察する。				

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<input type="checkbox"/> 公害と環境保全，農業・食料問題，中小企業の現状と課題，情報化の進展と課題，消費者問題，雇用と労働問題，社会保障と福祉社会の実現について理解している。 <input type="checkbox"/> 考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめている。	<input type="checkbox"/> 日本の経済や社会が抱える諸課題の解決に向けて自分には何ができるか多面的・多角的に考察し，表現している。	<input type="checkbox"/> 現代の日本経済について，よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

3 指導と評価の計画

(1) 授業の流れ（4節 福祉社会と日本経済の課題 全 13 時間）

- ① 公害と環境保全（1時間）
- ② 農業・食料問題（1時間）
- ③ 中小企業の現状と課題（1時間）
- ④ 情報化の進展と社会の変化（1時間）
- ※ 中間まとめ（1時間）
- ⑤ 消費者問題（2時間）
- ⑥ 雇用と労働問題（3時間） 【研究授業】
- ⑦ 社会保障と福祉（2時間）
- ※ 最終まとめ（1時間）

学習指導要領においては、
 A 現代日本における政治・経済の諸課題
 (2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究
 に該当
 ※その中で、研究授業は「多様な働き方・生き方を可能にする社会」の内容に該当

(2) 指導と評価の展開

時間 (次)	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
第1次 (1時間)	【単元を貫く問い】日本の経済や社会が抱える諸課題の解決に向けて、私たちには何ができるだろうか 【問い】循環型社会の形成に向けて私たちができることは何だろうか。 ○公害問題が発生する理由や、公害を防止する方法について理解する。 ○持続可能な社会の形成のために自分たちにできることは何か考察する。	○		
第2次 (1時間)	【問い】農業を魅力ある産業にするためには、どうすればよいだろうか。 ○戦後日本の農業政策の展開や、林業や漁業が抱える課題について理解する。 ○これからの日本の農業と食料はどうあるべきか考察する。	○		
第3次 (1時間)	【問い】中小企業の強みを活かすには、どうすればよいだろうか。 ○日本経済における中小企業の地位や、日本の中小企業が抱える課題について理解する。 ○日本経済の活性化のためにどのような中小企業政策が必要か考察する。	○		
第4次 (1時間)	【問い】デジタル社会において、私たちにはどのようなことが求められるだろうか。 ○情報化の進展が社会にもたらしているイノベーションや、「第四次産業革命」が社会生活にもたらす変化について理解する。 ○デジタル社会においてどのようなことに注意すべきか考察する。	○		
※中間 まとめ	※第1～4次の内容について、担当した探究課題を整理したものをグループ内で発表する		●	○
第5次 (2時間)	【問い】持続可能な社会の形成のために、消費生活でできることは何だろうか。 ○消費者問題が発生する理由や、消費者保護のために行われている施策について理解する。 ○消費社会において、自分たち消費者にはどのような知識や行動が求められるか考察する。	○		
第6次 (3時間)	【問い】これからの日本の雇用制度や労働環境は、どうあるべきだろうか。【研究授業】 ○労働問題が発生する理由や、憲法や労働三法が保障する労働者の権利について理解する。 ○雇用・労働問題を取り巻く状況と、これからの日本の雇用のあり方について考察する。	○	●	○
第7次 (2時間)	【問い】少子高齢社会における社会保障のあり方、特に子育て支援はどうあるべきだろうか。 ○社会保障制度の発展と変化や、日本の社会保障制度の特徴と課題について理解する。 ○少子高齢社会においてどのような福祉社会を築いていけばよいか考察する。	○		
※最終 まとめ	※第5～7次の内容について、担当した探究課題を整理したものをグループ内で発表する		●	○

評価：○定期考査や授業中の取り組みの観察など ●グループでの考察・まとめなど

(3) 指導にあたって

ア 生徒観

対象となる1組は、国際流通科2クラスのうちの1つであり、計37名（男子9名、女子28名）のクラスである。公民の学習に関しては、2年次に公共を履修している。進学希望者が半数以上いるが、多くは学校推薦や総合型選抜での大学・専門学校の進学を希望している。また、就職希望者も一定数いるため、本時の題材である雇用と労働問題に対する意識も高い。

（学校全体としては、国際教養科1クラス、普通科5クラスの1学年計8クラスの学校である）

学科の特性上、ビジネス基礎や簿記、マーケティングなどの商業科目を履修しているため、経済分野については普通科の生徒以上に興味・関心や理解度が高い生徒も多い。また、検定取得に向けた地道に学習に取り組む習慣があることから、与えられた課題に対して着実に取り組む姿勢が身につけている生徒が多い。一方で、自ら課題を設定して、工夫しながら探究する取り組みについては、年度当初は苦手な生徒が多かったように感じたが、政治・経済の授業でのGoogleスライドを用いたまとめ学習・発表や、国際流通科の課題研究の授業での取り組みなどを通じて、徐々に主体的・探究的な学習を進められるようになってきている。

イ 教材観・指導観

単元を通じて、日本の経済や社会が抱える諸課題を把握し、主体的に探究活動に取り組んでいくことで、個々人がその諸課題を自分事として捉え、よりよい社会の在り方について自分の考えを深めさせたい。

指導においては、生徒同士の多様な視点や価値観を大切にし、協働的な学びを通して、様々なものの見方や考え方があることへの「気づき」を重視し、そのための支援に努める。

4 本時の指導計画

(1) 本時の目標

多様な働き方・生き方の実現に向けて、雇用制度や労働環境のあり方に対する考察を深め、将来の自分自身や社会全体の働き方や生き方に対する関心や課題意識を高める。

(2) 本時の展開（第6次・3時間予定の3時間目）

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	○ 前時までの復習	・これまでの学習を踏まえ、現代の労働問題や課題・対策にはどのようなものがあるかを確認する（「過去・現在・未来」で整理）	・キーワードを確認する（ワーキングプア・外国人労働者・ワークライフバランス etc） ・整理には Canva を活用
	【問い①】現代の労働問題には、どのようなものがあるだろうか。（復習）		
	※ グループワークの準備	・事前に伝えていた課題をグループ内で発表する準備をする	・タブレットで事前課題としていたスライドの発表準備をさせる
展開	○ 雇用制度や労働環境のあり方について	・グループ内発表（一人5分×4名予定）を通して、他者の意見を知り、思考を広げる	・説明＋発表3分程度、質疑・意見交換2分程度を想定
	【問い②】これからの日本の雇用制度や労働環境は、どうあるべきだろうか。		
		・「問②」について、グループ内で他者の意見を聞き、共感したことや、新たに考えたことなどを、用意された Google フォームに入力する	・リアルタイムではプロジェクター投影で、その後結果をまとめたスプレッドシートを配信して、意見等を共有する ・様子を見ながら、考える視点を助言する
まとめ	○ まとめ	・入力されて共有された意見等を参考にしながら、「問い②」に対する意見を、各自が発表用に用意したスライドの最後に、まとめとして意見を整理する ・日本の雇用制度や労働環境に対する意見交流を通して、多様な働き方・生き方の実現が求められていることへの理解を深める	・意見を整理して加えた発表スライドは、Classroom 経由で提出させる ・次時（社会保障と福祉）へのつながりや、制度設計をする政治へのつながりを意識させる

※事前課題として、次の内容で Google または Canva でスライドを作成するよう指示

- ①自分の将来の生活を考えるうえで、労働（仕事）に対して、自分がどのように向き合っていきたいか（どのような働き方をしたいか、何を大切に働きたいかなど…）
- ②そのために必要な雇用制度や労働環境は、どのような状況であるのが理想か（雇用制度や労働環境の問題点を具体的に挙げて説明することを含める）
- ③このように考えた自分の「理想」と現代の世の中の「現実」のギャップを埋めるために、どうしていくか（ア. 自分自身の対応 イ. 世の中の制度や環境への働きかけや提言等）

評価規準…課題に対する評価【思考・判断・表現】

A	B	C
仕事・労働に対して、社会全体の問題・課題点にも自分なりに向き合い、自分の理想と現実の差について深く考え、表現している	仕事・労働に対して自分なりに向き合い、自分の理想と現実の差について考え、表現している	仕事・労働に対して向き合おうとしていない。自分の理想と現実の差について考えようとしていない、表現できていない